

100%市民派・中川健作の

市議会がわらばん

2006年・11月
(第69号)

(連絡先)
米子市政研究会
米子市内町53
☎(0859)33-6475
FAX(0859)23-0268

御意見をお寄せ下さい。

(ホームページ) <http://www2.sanmedia.or.jp/nakagawa/> (メールアドレス) nakagawa@sanmedia.or.jp

選挙後初の市議会報告を お届けします。



これまででは六月に定例市議会が開かれていましたが、選挙が六月二十五日に行われたために七月になり、七月から十月にかけて毎月議会をやっていたような慌ただしい日々でした。遅くなりましたが、七月議会と九月議会の報告をお届けします。

七月議会報告(七月二十日〜八月八日) 会派『未来』、第2勢力に

合併後初の市議選は定数三十を四十六人で争う大激戦になり、現職が八人も落選しました。幸い、私が入っていた会派『未来』(政策グループ)は五人全員が当選し、あらたに新人がひとり参加し、議会内の第二勢力になりました。『未来』は、「情報公開と説明責任を果たし、市民にとってよりわかりやすい市政をめざす」「行政および議会への市民参加・協働をよりいっそう推進し、真の市民自治を実現する」などを基本理念とし、各個質問の内容や議案に対する賛否については拘束しないことなどの約束で運営します。

スーパー『イズミ』出店 反対陳情、一票差 (15対14)で採択!

広島が本社のスーパー「イズミ」に関しては、定数が四十七人のときの議会で、上福原の地権者から提出されていた「イズミを核とする区画整理事業促進」陳情が採択され、商工会議所などから提出されていたイズミ出店反対陳情は継続審議⇒廃案になりました。

選挙後に、商工会議所など七団体からあらためて反対陳情が提出され、産業経済委員会では賛否が三対三に分かれ、委員長が不採択にしました。本会議でも賛否が微妙な情勢だったのですが、陳情に反対するつもりだったA議員が私の討論を聞いて賛成にまわったとのことで、陳情は一票差で採択されました。私の演説が、結果として議会にイズミ出店反対の意思表示をさせたことになり、こんなにうれしいことはありません。



中川の所属委員会等

建設水道常任委員会、中海問題等調査特別委員会(委員長)、議会運営委員会、米子市土地開発公社・開発公社理事、米子福祉会評議員

7月議会での主な議案・陳情に対する全議員の賛否一覧

- ①犯罪のないまちづくり推進条例 ②市営葬儀事業を廃止する条例 ③イズミ出店反対陳情
④教育基本法改正反対陳情 ⑤アメリカ産牛肉輸入再開反対陳情

会派	氏名	①	②	③	④	⑤	会派	氏名	①	②	③	④	⑤	会派	氏名	①	②	③	④	⑤
新風	岩崎 康朗	○	○	○	×	×	未来	伊藤 ひろえ	×	×	○	○	○	新政会	山形 周弘	○	○	○	×	×
"	竹内 英二	○	○	○	×	×	"	内田 隆嗣	×	×	×	×	○	公明党	笠谷 悦子	○	○	×	×	×
"	谷本 栄	○	○	○	×	×	"	門脇 邦子	×	×	○	○	○	"	原 紀子	○	○	×	×	×
"	中田 利幸	○	○	○	×	×	"	中川 健作	×	×	○	○	○	"	安木 達哉	○	○	×	×	×
"	中村 昌哲	○	○	○	×	×	"	森 雅幹	×	×	×	○	○	"	安田 篤	○	○	×	×	×
"	野坂 道明	○	○	○	×	×	"	八幡 美博	×	×	×	○	○	共産党	岡村 英治	×	×	○	○	○
"	松田 正	○	○	○	×	×	新政会	尾沢 三夫	○	○	×	×	×	"	松本 松子	×	×	○	○	○
"	吉岡 知巳	議				長	"	藤尾 信之	○	○	○	×	×	明正会	中本 実夫	○	○	×	×	×
"	渡辺 穰爾	○	○	○	×	×	"	松井 義夫	○	○	×	×	×	一院クラブ	遠藤 通	○	○	×	○	○
"	渡辺 照夫	○	○	×	×	×	"	矢倉 強	○	○	×	×	×	誠心	宮田 誠	○	○	×	×	×

『未来』として、「市営葬儀廃止条例」 「犯罪のないまちづくり条例」に反対しました

市営葬儀は市民に安価な葬儀を提供することを目的に行われてきましたが、今議会にこれを廃止する条例が提案されました。市の廃止理由は、①民間葬儀社の競争で費用が安くなった、②多年にわたり赤字経営、③民間で出来ることは民間で—というものです。しかし、民間葬儀は決して安いとは言えず、市営葬儀を知らない多くの市民もあり、宣伝をすれば赤字にならないはずです。引き続き市民に安価な市営葬儀サービスを提供することを求め、廃止条例に反対しました。

また、犯罪のないまちづくり条例は多くの自治体が警察からの助言により制定している。活安全条例と性格を同じにするものです。ひとことで言つて、市民や事業者に対して防犯対策を自分自身で行えという内容の条例です。本来、犯罪のないまちづくり条例とすれば、市の責務として犯罪が起きにくくするための環境整備などを規定する必要がある。パブリックコメントも行わず、議論が不十分で問題の多い条例なので反対しました。



七月議会 各個質問報告

中海の自然再生と堤防開削、 大橋川拡幅について

■問 干拓・淡水化事業によって大きなダメージを受けた中海の自然環境や生態系を取り戻す

■答 干拓・淡水化事業によつて大きなダメージを受けた中海の自然環境や生態系を取り戻す

■市長 自然再生協議会の立ち上げに向けての話し合いには職員も参加して積極的に関わっているが、正式に立ち上げるには県や国の動向を見極める必要がある。

■コメント 自然再生事業は地域主導のボトムアップ型で進める新たな事業であると位置付けられている。消極的な市長の姿勢では再生事業は進まない。

■問 森山堤防一部開削後の中海の一層の水質改善を図るために、両県共同で「(仮)中海水質改善対策協議会」を設置することになった。米子市も正式メンバーであり、水質改善策等を提案して行かねばならないが、どのように取り組む考えか。

■市長 中海にかかわりのある住民の皆さんの意見を伺いながら、同対策協議会において米子市の意見を述べていく。

■問 澄田島根県知事は「堤防問題が解決したことによって、大橋川の改修が実現できるのではないかと期待している」と述べている。森山と大海崎のふたつの堤防をできるだけ開削して、元の潮位に戻してからでないかと大橋川拡幅はあり得ないという

のが、米子市民の思いである。森山堤防だけの一部開削では「堤防問題の解決」とはならない。市長の見解を尋ねる。

■市長 森山堤防開削後の治

島根原発の活断層調査と プルサーマル、原発防災について

■問 今年五月、中国電力が活断層はないと言い切っていた場所から新たに活断層が見つかった。あらためて中国電力や国に対して活断層の徹底的調査と耐震安全性についての徹底的検証を申し入れるべきではないか。

■市長 中国電力に対して申し入れたい。

■問 危険性が指摘されているプルサーマル計画が、米子市や市民に対して何の説明も協議もないままに島根原発で進められている。少なくとも市民に対して説明会などを開くよう、中国電力に対して要請すべきではないか。

■市長 中電に要請したい。

■問 米子市の原発防災計画案は、「島根原発で事故が起こっても人体に影響するおそれは米

水・水質のモニタリング結果に基づき、必要があれば大海崎堤防の開削などを含めて中海水質改善対策協議会の場で意見を述べてまいりたい。

子市にはない」との前提で作成され、問題である。一〇kmより外側は外部全身被曝線量が二〇ミリシーベルト以上にならないとしているが、保障はあるのか。また、一〇ミリシーベルト以下は人体に影響がないと保障できるのか。

■市長 全身に二〇〇ミリシーベルト以下の放射線を受けても臨床学的な症状はあらわれないとされているので、国が定めた基準を尊重したい。

■コメント 一〇〇ミリシーベルトは髪が抜けるなどの急性被曝の基準。国際放射線防護委員会が定める一般人の年間被曝許容量は一ミリシーベルトである。一〇ミリシーベルト被曝すると米子市民十五万人のうち六〇〇人が将来ガンで死ぬと言われている。国の基準を守っていたらとんでもないことになる。

ごみ有料化、決まる

減量より財源確保を優先

九月議会に四〇リットルごみ袋八〇円などのごみ有料化条例が提案されました。周辺自治体の手数料は米子市案の半分程度であり、一年間で一世帯あたり一万円近い負担になるこの案に対して、多くの市民から批判が出ました。

市長は「有料化の一番の目的はごみ減量化」と説明していますが、今年四月からプラスチックごみを可燃ごみにしたために、ごみ量が相当増えています。有料化より、プラスチックごみを以前のように分別することが先です。また、ごみ減量のためには避けて通れない生ごみの堆肥化も全く検討されていません。

このたびの有料化対象ごみは可燃ごみと不燃ごみだけで、何故、古紙類、缶・びん、ペットボトル、発泡スチロール、再利用ビンなどの資源ごみは、有料化しないのでしょうか。有料化すれば店頭回収や集団回収がすすみ、米子市が税金を使って

集める必要がなくなりません。製造者・販売者に対して、再利用できる製品の製造・販売などを促すことにもなります。ごみの排出抑制が目的の有料化であるなら、資源ごみこそ有料化が必要です。ちなみに、米子市の平成十七年度の資源ごみ処理経費は約四億二千万円です。結局、このたびのごみ有料化は、ごみ減量化のためというより、財源確保が目的だと批判されてもしかたがありません。どのごみを有料化すればごみが減るのかなど、もつともっと検討しなければならぬことがたくさんあります。しかも、市民の関心も高く重要な問題なので、決定前に市民説明会を開き市民の意見を十分に聞く必要があります。



会派『未来』では、以上のような内容のチラシを三万枚配布し、三日間街頭宣伝を行い、市民の素直な声を市当局や知り合いの議員に届けることを呼びかけました。多くの市民から『未来』の訴えに賛同する意見が届きました。わたしたちは他会派に対して、議会としても市民の意見を聞く場を設けるなど、時間をかけて慎重に審議するために継続審議にするよう働きかけました。が、受け入れられませんでした。そこで、次善の策として、料金を半分にし、実施を半年延ばしてその間に十分な市民説明会を開催する修正案を委員会で提案しました。しかし、この案は否決され、他会派から提案された料金を八〇→六〇円、四〇→三〇円、二〇→一五円に下げ、予定通り来年四月から有料化し、二年後に料金を見直すという案が可決されました。

可決後の当局のホツとした態度を見ると、二年後には料金を値上げさせてやるから修正を認めろという裏取引があったのではと、疑いたくなります。こんなやり方で有料化を強行すれば、

知的障害児通園施設の利用料大幅値上げと食事代徴収に対し、減免を求める

障害者自立支援法により、十月から知的障害児通園施設に通う子どもからも原則一割の自己負担と給食費の実費負担を求めることになりました。自立支援法の目的は、「障害者および障害児が自立した日常生活

は、本来の目的であるごみ減量化は進まず、不法投棄などが増えるのではないかと心配です。

私は、この問題を議案質疑で取り上げ、食費(六五〇円)を全額補助する愛知県春日部市や、人件費分の四二〇円を補助する静岡市の例などを紹介し、米子市も同様の措置をとるよう求めました。その結果、一八年度は一食三五〇円、一九年度は二八〇円、二〇年度は一四〇円の補助を行い、年次的に激変緩和策を適応することになりました。

しかし、「あかしや」は定員二十七人なので人件費分を全額補助したとしても、米子市の負担は年間二七・二万円に過ぎません。保護者の声を聞き、何故もつと暖かい対応ができないのでしょうか。



九月議会 各月議会報告

ごみ有料化

財源確保を優先したごみ有料化であり、有料化本来の目的であるはずのごみ減量方針が大変不十分なので、見直しを求め、立場から質問しました(内容は省略)。

大橋川拡幅

■問 九月に開催された中海圏域四市長座談会で、松江市長が米子・境港・安来の三市長に大橋川拡幅への協力を要請したと報道されている。新聞の見出しには、「下流三市長、大橋川改修に協力」とあり、市民は、野坂市長は拡幅を認めたのかと不安に感じている。どのような対応をされたのか。

■市長 松江市民の生命財産を守るという松江市長の立場は理解できるので大橋川改修に反対するものではないが、下流域の米子市の立場としては、環境影響調査の実施などの環境保

全、沿岸の護岸整備などの治水対策が前提であると申し上げた。

■問 大橋川拡幅のための測量調査に同意を求められた際、米子市は、干拓堤防建設によって上昇した弓ヶ浜沿いの水位を元に戻すために、森山・大海崎の両堤防を開削することを条件に、測量調査に同意した。最近この経過がないがしるにされようとしている。

大橋川拡幅問題でのやりとりにあたっては、市長は常にこの経過を明確に相手に伝えるべきであるが、どのように伝えていくのか。

■市長 現在環境アセスをやっている中で、アセス、護岸整備などが着実に実施されるよう伝えられている。

■問 彦名・崎津農事実行組合から、農作物に被害が出ているので両堤防の開削を求めるという要望書が提出されている。このような地元の声の届いているのか。

■市長 市として地元の声

聞いてアセス意見を出したし、地元も直接意見を言っているの、地元の声の届いてアセスがやられると思う。

島根原発プルサーマル

■問 さる九月十四日、島根原発プルサーマル計画について、米子市職員向け勉強会が中国電力職員を講師にして開催されたが、耐震安全性の問題も含めて非常に難解で、説明も一方的という印象だった。市民の生命・財産にかかわる重要な問題であり、客観的な判断を行うためには、プルサーマル発電あるいは耐震安全性について危険性を指摘している学者も招いて、勉強することが必要ではないか。

■市長 プルサーマル計画や耐震安全性の問題点について様々な意見があることは承知しているが、原子力安全委員会での検討されることになるので、その内容に注目し、国・関係機関の考え方を尊重していきたい。

■問 市長として、先日説明を聞いただけでプルサーマルは安全、耐震安全性も十分であると市民に言えるのか。

■市長 難しい問題でありなかなか把握できない。それで、

中電に対して市民説明会開催を要請している。

■コメント 八月二十五日に市長名でプルサーマル計画に対する市民説明会開催を文書で申し入れていたが、中電は十月十日に「立地市である松江市以外で中電主催の住民説明会を開催することは考えていない」と回答してきた。中電および危険性を指摘している学者の両方を招き、市民にも参加を呼びかけて、米子市主催のシンポジウムを行う必要がある。



活断層の存在を無視して建設されている島根原発3号炉 (10月15日撮影)

市政報告会

十二月四日(月)午後七時

米子市公会堂第1集會室

※市政のことなど語り合います。気軽にご参加下さい。

議員報酬会計報告 (2006年4月~9月)

収 入		支 出	
前月からの繰り入れ	-300480	議員共済掛け金	435,400
議員報酬	2,925,000	所得税	262,866
期末手当	1,064,000	住民税	275,930
カンパ	22,166	保険料	339,000
合 計	3,710,686	信料	129,440
※今回もカンパをお寄せいただき、ありがとうございました。		代金	41,370
※議員報酬会計の用途は常に公開しています。		生活費	339,655
		川生費	2,240,000
		(28万円×6ヶ月、一時金2ヶ月分)	
		選挙会	300,000
		次月繰越金	-652,975
		合 計	3,710,686

編集後記

市政の情報、議会活動の様子などをできるだけみなさまにお知らせするために、「FAX・メール通信」を発行しています。FAX番号、メールアドレス(携帯は不可)をお知らせいただければお届けいたします。年に四回発行の市議会かわらばんではお伝えできないことも多いので、ぜひお申し込みください。また、みなさまからのご意見もお待ちしています。